



IDE-JETRO

日本貿易振興機構アジア経済研究所業績評価委員会
(2022年度分評価)

実施報告

日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア経済研究所

2023年 7月

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要 p. 3
2. 外部業績評価の結果 p. 8

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

外部業績評価を実施する背景

- アジア経済研究所は、国立研究開発法人の目標設定に関する規定を準用し、中期目標を策定。
- 業績評価にかかる一部（評価軸 2 および 3）は、業績評価委員会からの総合評価を受けることとしている。

第 5 期中期目標（アジ研部分 抜粋）

学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献

アジア経済研究所は、学術研究によって蓄積された研究資源を活用し、効果的かつ効率的な幅広いアウトリーチ活動を通じて、我が国の政策担当者やメディア、経済界、国民各層、さらには新興国等の政府、産業界、市民社会等にも幅広く積極的に研究成果を還元し、我が国企業の貿易投資の拡大ならびに我が国政府の通商政策立案の基盤となる質の高い分析と情報を提供する。政策立案への貢献にあたっては、政策担当者のニーズや政策課題を踏まえた研究テーマの選定や、中間報告や定期ブリーフィングなどによる政策担当者との緊密なコミュニケーションの実施などにより、顕在化している政策課題に対応した世界水準の学術研究を実施するほか、現時点で顕在化していない中長期的な政策課題にもなり得るアジェンダを提示することで、政策立案への広範な貢献を果たす。

評価軸（1）による評価

アジ研業績評価委員会による評価対象

付加価値の高い学術研究成果の創出と蓄積

アジア経済研究所は、前項に示した「学術研究成果の最大化を通じた政策立案への貢献」を実現するため、我が国におけるアジア地域およびその他の地域に関する研究の拠点として、国際的な政治・経済・社会情勢等、中長期的かつ革新的な視点に立った分析を通じて、大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な研究活動を実施し、世界の公共財となり得る付加価値の高い研究成果を創出し、良質な研究資源を蓄積する。

新たな知見を獲得し、新たな付加価値を生み出す基盤となるこれらの研究活動を通じて、特に、高い専門性をもつ多様な研究者の集積を強みとして、国際的な政治・経済・社会秩序の変容や技術革新がもたらす産業構造の変化ならびにこれらが我が国を含めた国際社会に与える影響などについて、国・地域・分野を横断した研究を強化する。また、持続可能性や包摂性の追求が問われる地球規模の課題について、我が国の国益に資するだけでなく、世界の発展への貢献にも繋がる研究成果を創出する。

評価軸（2）による評価

アジ研業績評価委員会による評価対象

国際的な研究ハブ機能と学術情報プラットフォーム機能の発揮

アジア経済研究所は、上記目標を実現するための方策として、世界の研究機関・研究者等とのネットワーク形成を通じ、国際機関や海外の大学・研究機関との共同研究等を推進する。また、国内外の優れた研究人材を活用しながら、国際的な研究ハブとしての機能を高め、蓄積された研究資源を活用して世界への知的貢献を行う。

そのための必須機能として研究マネジメント機能をさらに強化するとともに、図書館の資料情報基盤整備や情報発信機能の強化を通じて、アジア地域およびその他の地域に関する学術研究の知的基盤をなす公共財として、学術情報プラットフォーム機能を発揮する。

評価軸（3）による評価

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

評価軸、評価/モニタリング指標

- アジア経済研究所業績評価委員会による評価結果は、モニタリング指標の一つ。
- 評価軸（2）,（3）ともに、業績評価委員会による総合評価を踏まえてジェトロが自己評価のうえ、経済産業大臣へ提出。

アジア経済研究所の評価軸と指標（抜粋）

評価軸（2） 大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか

評価指標	・ 具体的な先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果の創出状況
モニタリング指標	・ 誌上、ウェブサイト上または口頭での論文発表件数
	・ 創出された研究成果の外部評価（ アジア経済研究所業績評価委員会による総合評価 ）

評価軸（3） 国際的な研究ハブ機能ならびに学術情報プラットフォームとしての機能を発揮しているか

評価指標	・ 新たに形成した又は維持している学術ネットワークの量と質
	・ 学術情報センター等における学術情報の蓄積と運用状況および活用状況
モニタリング指標	・ 国際学会・国際会議等への参加数および招待講演数
	・ 研究所が主催・共催・参画した国際会議等の開催数
	・ 実施した学術ネットワーク活動の外部評価（ アジア経済研究所業績評価委員会による総合評価 ）
	・ 学術情報・データ蓄積等の発信（掲載）・アクセス件数・ダウンロード件数

(参考) モニタリング指標実績一覧 (評価軸 2, 3)

評価軸および指標	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
評価軸 (2) 大学や民間企業では実施し難い先駆的かつ独創的な付加価値の高い研究成果が創出されているか				
誌上・ウェブサイト上または口頭での論文発表件数	611件	595件	596件	491件
創出された研究成果の外部評価 (業績評価委員会による総合評価)	4.4点	4.4点	4.8点	4.7点
	定性的評価	定性的評価	定性的評価	定性的評価
評価軸 (3) 国際的な研究ハブ機能ならびに学術情報プラットフォームとしての機能を発揮しているか				
国際学会・国際会議等への参加数および招待講演数	274件	202件	301件	230件
研究所が主催・共催・参画した国際会議等の開催数	7件	9件	12件	10件
実施した学術ネットワーク活動の外部評価 (業績評価委員会による総合評価)	定性的評価	定性的評価	定性的評価	定性的評価
学術情報・データ蓄積等の発信 (掲載) ・アクセス件数・ダウンロード件数	704万件	680万件	637万件	331万件*

*システム基盤入替によるシステム設計の相違に対応するため、アクセス解析ソフト及び集計対象を変更。

1. アジア経済研究所外部業績評価の概要

業績評価にかかるスケジュール

時期	内容
2022年12月 ～ 2023年3月	専門委員による論文等の評価
2023年4月	アジア研業績評価委員会の開催 ※評価を頂くための研究所からの説明の場 ↓
2023年5月	業績評価委員による評価票の記載 研究所にて評価票の集約・とりまとめ ↓ 業績評価委員会の評価を踏まえ、ジェトロ全体の法人評価（自己評価）の作成
2023年6月	ジェトロ全体の法人評価（自己評価）の確定 ↓ 6月末までに法人評価（自己評価）を経済産業大臣に提出
2023年8月	経済産業大臣による評価確定
2023年9月	法人評価結果の公開

アジア経済研究所 業績評価委員会 委員一覧

氏名	ご所属
石川 城太	学習院大学国際社会科学部教授
絵所 秀紀	法政大学名誉教授
遠藤 貢	東京大学大学院総合文化研究科教授
小川 英治	東京経済大学経済学部教授、 一橋大学名誉教授
粕谷 祐子	慶応義塾大学法学部教授
小長谷有紀	日本学術振興会監事
恒川 恵市	東京大学名誉教授
丸川 知雄	東京大学社会科学研究所教授

2. 外部業績評価の結果

2. 外部業績評価の結果

専門委員による研究成果物の評価結果（5点満点）

- 刊行（予定を含む）された書籍・論文のうち以下の11点を対象に、それぞれ2名の専門委員が評価を実施。
- 外部専門委員による総合評価の平均は4.7点

	単行書または論文名	種別	総合	総合平均
1	丁可編著「米中経済対立—国際分業体制の再編と東アジアの対応—」アジア経済研究所、2023年2月	単行書	5 5	5.0
2	安倍誠編著「韓国文在寅政権の経済政策」アジア経済研究所、2022年12月	単行書	5 3	4.0
3	寺尾忠能編著「『後発の公共政策』としての資源環境政策—理念・アイデアと社会的合意—」アジア経済研究所、2023年3月	単行書	4 5	4.5
4	間寧編著「エルドアンとトルコ：長期政権の力学（仮）」作品社、2023年	単行書	5 4	4.5
5	森壮也編著「中東のなかの『障害と開発』」アジア経済研究所、2023年2月	単行書	5 5	5.0
6	TANAKA, Kiyoyasu; FUKUNISHI, Takahiro;; "Rules of origin and exports in developing economies: The case of garment products", Journal of Asian Economics, 82 (2022)101514.	論文	5 5	5.0
7	HAYAKAWA, Kazunobu; MUKUNOKI, Hiroshi;; "The magnification effect in global value chains", Review of International Economics, (2022) 1-17.	論文	5 5	5.0
8	OTSUKA, Kenji;; "Co-optation in co-production: Maintaining credibility and legitimacy in transboundary environmental governance in East Asia", Review of Policy Research, 39 (2022) 771-797.	論文	5 5	5.0
9	HAMANAKA, Shintaro;; "Regionalism, membership and leadership: insights from Asia and beyond", Pacific Review, (2022).	論文	4.5 4	4.3
10	KUDO, Yuya;; "Eradicating female genital cutting: implications from political efforts in Burkina Faso", Oxford Economic Papers- New Series, (2022) 1-23.	論文	5 5	5.0
11	寶劔 久俊、山口 真美、佐藤 宏、「中国農民工の離職意向はどのような要因に規定されているのか—江蘇省蘇州市の製造業従業員調査に基づく実証分析—」、アジア経済、63 (2022) 2-31.	論文	4 5	4.5

総合評価平均 = 4.7

- 評価軸（2）「創出された研究成果」および評価軸（3）「実施した学術ネットワーク活動」について、各業績評価委員の評価を集約。

評価軸（2）創出された研究成果

- ① 単行書・論文等に関する評価
- ② 実施した研究課題に関する評価
- ③ 研究活動全般に関する評価

評価軸（3）実施した学術ネットワーク活動

- ① 意義が大きい活動に関する評価
- ② 学術ネットワーク活動全般に関する評価



アジア経済研究所
法人評価
(自己評価)



主務大臣へ提出

2. 外部業績評価の結果

創出された研究成果の外部評価（業績評価委員会による総合評価）

① 単行書・論文等に関する評価

- アジア経済研究所が2022年度に刊行または発表した**研究成果のうち、特に評価できるもの**として、「**米中経済対立－国際分業体制の再編と東アジアの対応**」が多くの委員から挙げられた。その理由として、「米中対立の激化によるデカップリングの問題は、**現代のビッグ・イシューの一つであり、その問題に取り組んで、いち早く成果の出版にまでこぎつけたことは称賛に値する**。特にバリューチェーンへのインパクトに焦点をあて、それを具体的に台湾とベトナムについて分析して見せたことは、**今後の研究を刺激する上で重要な貢献**である」、「米中対立を背景としたデカップリングは、非常に高い関心を呼んでいる問題であり、バリューチェーンの再編と言った喫緊の課題に密接する。本研究は、こうした課題を多角的に検討した研究成果として、**社会ニーズに応える意義が高い**」、「米中の経済対立が東アジアにおいてもたらす政治・経済的インパクトを、アメリカ、中国、中国以外のアジア諸国という複数の観点から包括的に理解しようとする共同研究で、最近の変化を掴む上で**特にビジネス界に有益な情報源**となっている」等のコメントを得た。
- そのほか、「温暖化ガス排出を、グローバル・バリューチェーンの観点から追跡した研究で、Cell姉妹誌の『One Earth』という**世界最高レベルの学術誌から出版されたことでアジア経済研究所の世界的知名度を高めた**」、「グローバル・バリューチェーンの研究と温暖化ガス排出を結びつけた**画期的な研究**。環境科学分野で**有力な国際学術雑誌に掲載されたことは、国際的な評価も高いことを示している**。多くの国の研究者を糾合した成果でもあり、そのイニシアティブをとった孟研究員に敬意を表したい」との理由から「**Developing countries' responsibilities for CO2 emissions in value chains are larger and growing faster than those of developed countries**」が複数の委員から高い評価を得た。
- また、「これまで十分に取り扱われなかった領域の問題でもあるが、**多様性を重視するトレンドにも配慮し、今後の研究の基礎にもなり得る研究**として、アジ研ならではの成果と評価できる」、「**従来にない新しい視点での研究**として評価されるべき」との理由から「**中東の中の『障害と開発』**」が、そして「**アジア経済全体を俯瞰するのに大変有用な年報**であり、ユーザーとして評者は高く評価したい。特に、新型コロナウイルスの感染拡大のアジア各国への影響を知るうえで重要である」、「**ほぼ網羅的な報告と持続性の高さは評価されるべき**」との理由から「**アジア動向年報2022**」も、それぞれ複数の委員から高い評価を得た。

創出された研究成果の外部評価（業績評価委員会による総合評価）

② 実施した研究課題に関する評価

- 84件の研究課題のうち特に実施する意義を高く評価できるものとして、以下が複数の委員から選ばれた。

- ① 「社会科学者のための大量データ処理の方法と実践」
- ② 「『ビジネスと人権：責任ある企業行動およびサステナビリティに関する政策』に係るプラットフォーム事業」
- ③ 「アジア諸国の動向分析」
- ④ 「デジタル化と発展途上国ーデジタル化によって変わるもの、変わらないもの」
- ⑤ 「GVCへの参入・高度化と構造比較」
- ⑥ 「グローバル・バリューチェーンの見える化システム構築」

- 委員からはそれぞれ以下のようなコメントを得た。

- ① 「EBPMの重要性が高まる中、ビッグデータの処理やその構築に関するプロジェクトはニーズが高い」
- ② 「日本政府の政策指針（「ビジネスと人権に関する行動計画（2020-2025）」、「責任あるサプライチェーン等における人権尊重のためのガイドライン」）の策定に貢献するなど、研究としてだけでなく、実務におけるニーズにも効果的に対応する、価値の高い研究である」
- ③ 「1970年から続くアジア経済研究所の経常プロジェクトで、世界的にみても貴重な研究情報源である」
- ④ 「国・地域による変化の違いに焦点をあて、デジタル化と途上国の関係を地域の文脈から観察し、比較検証する研究であり、時宜を得た研究テーマである」
- ⑤ 「研究の意義とともに新規性が高い。また、英文外部出版単行書として出版されることも研究の国際的な貢献度を高める」
- ⑥ 「最近注目されているGVCに関して、様々なデータを連結しようという野心的なプロジェクトである。成功すれば、大きな貢献となるだろう」

創出された研究成果の外部評価（業績評価委員会による総合評価）

③ 研究活動全般に関する評価

- 研究活動全般に対する評価としては、「パンデミック、対ロシア経済制裁、米中対立によるグローバル生産網の分断（デカップリング）は、現代の世界経済にとって焦眉の問題。この問題にいち早く対応し、複数の英文ディスカッション・ペーパーを出し、またIDE-GSMを使った分析に戻づくポリシーブリーフを作成し、NHKの番組制作にも協力したこと、さらに丁可編の『米中経済対立—国際分業体制の再編と東アジアの対応』をオープン・アクセス本として出したことは、アジア経済研究所におけるGSMやバリューチェーンの研究蓄積を生かし、かつ世界のビッグ・イシューにいち早く対応した動きとして、高く評価したい」、「幅広いテーマを取り上げており、アプローチも多様（経済学、政治学、国際関係論等）で層の厚さを感じさせる。特に目をひいたのは、米中対立やロシアのウクライナ侵攻を取り上げたもので、機動力の高さに脱帽した」、「国際的なトップジャーナルへの論文掲載が実現し、アジア経済研究所が国際的に高いレベルの研究機関であることを世界の研究コミュニティに対して発信した」、「質的にも量的にも極めて優れたものとなっている。研究テーマについても経済問題のほか、『ビジネスと人権』やジェンダー問題や障がい者問題など、より幅広い研究分野で多様性の高いテーマについて研究が進められた」など、アジア経済研究所が世界経済の焦眉の問題に機動的に対応しつつ、幅広い研究テーマを多様な手法の下に実施し、質的にも優れた成果をあげていると高く評価するコメントを得た。
- また、「重要な学術研究の成果は、邦文、並びに欧文ジャーナルや和文書籍として刊行されているほか、新たな研究課題の発信媒体としてのDiscussion Papers、政策提言に向けたポリシー・ブリーフ、さらには直近のグローバル・サウスの課題解説を行うIDEスクエアなど、様々な媒体を用いて発信していることは、その内容とともに社会の様々なニーズへのきめ細やかな対応という意味で重要な取り組み」、「ウェブサイトによる発信が強化されていることも、国内外の研究者・市民にとって有益。特に、『世界を見る眼』シリーズは、世界で起こっている大問題（ロシアのウクライナ侵攻や米中対立）が途上国に与える影響や、途上国各国で起こっている時事問題などに関する分析を素早く提供しており、新聞報道などでは得られない、問題を深く掘り下げた知見を得ることができる」など、成果の発信を評価するコメントも得られた。
- 今後への期待として、世界動向におけるグローバルサウスの立ち位置がどうなるかという大きな問題について、多数のグローバルサウス研究者を擁するアジ研により大きなエネルギーを充てることを期待するコメントや、地球温暖化やロシアのウクライナ侵攻などの最近のホットイシューを扱う本格的な研究を期待するコメントもあった。

実施した学術ネットワーク活動の外部評価（業績評価委員会による総合評価）

① 意義が大きい活動に関する評価

- 2022年度に実施した学術ネットワーク活動のうち、特に意義を評価できるものとして、「**世界銀行との共催による国際シンポジウムの開催～アジアにおける海洋プラスチック汚染と対策：生態系への影響と国際協力の枠組み～**」が多くの委員から挙げられた。その理由として、「代表的な国際開発金融機関である世界銀行と共催によって海洋プラスチック問題に関する国際シンポジウムを開催することは、**アジア経済研究所のプレゼンスを内外に示すことに大きく貢献**する」、「『アジアにおける海洋プラスチック汚染と対策』は、緊急な対応を要する重要課題であり、それを国際的に注目される国際シンポジウムの形で発信したことは**社会的意義が大きい**」、「世界銀行および朝日新聞社という、海外・国内で発信力の高い機関との共同企画である点、また、**600名もの参加者を獲得したインパクトのあるイベント**であったことが高く評価できる」等のコメントを得た。
- このほか、国際機関ERIAにかかわる東アジア・ASEAN16カ国の研究機関ネットワーク（RIN）に日本を代表してアジア経済研究所が参加している「**RIN（研究機関ネットワーク）会合の開催**」や、アジ研が主唱し“Reconnect East Asia towards building a dynamic, sustainable, inclusive, resilient, and peaceful East Asia”というテーマで議論した「**RINオンラインワークショップの開催**」がさらなる関係強化に資する活動としてそれぞれ複数の委員から高く評価された。
- また、重要な新興国である**インドネシアの国家研究イノベーション庁（BRIN）と将来の研究協力についてワークショップを開催**したことを**先見の明のある動きとして評価**するコメントや、**オランダ国際アジア研究所（IIAS）との連携**を「恒常的な関係に移行することによって、**より厚みのある学術ネットワークの形成に寄与**している」と評価するコメント、さらには、タイ・メーファールアン大学との共催イベント「**メコン・ダイアログ**」について、「極めて時宜にかなう形でメコン川流域の環境、食糧、エネルギー、気候変動にかかわる会合が開催されたことは、**今後の研究協力において重要な交流**」と評価するコメントなどが得られた。

実施した学術ネットワーク活動の外部評価（業績評価委員会による総合評価）

② 学術ネットワーク活動全般に関する評価

- 学術ネットワーク活動全般に対する評価としては、「活動量および活動の多様性について十分な水準に達している」と評価するコメントがあった。また、国際的な移動制限が緩和されるなかで学術ネットワーク活動が活性化し、ハイブリッド型や対面で多くの学術交流イベントが継続的に開催されていることを評価するコメントが複数の委員から得られた。具体的には、RIN会合や世界銀行との共催による国際シンポジウムなど、国際機関と共同で国際会議等を開催したことを評価するコメントや、それらの共催イベントにより登壇者・参加者の拡大および多様化が図られていることを評価するコメントもあった。
- 海外15カ国から21名の客員研究員を受入れたことについても活発な国際研究交流として高く評価するコメントがあった。また、アジア・アフリカ諸国の若手行政官等の人材育成とネットワーク構築を行うアイデアス研修事業に関しては、「行政官を含む国内外の次世代研究者の養成が可能となる仕組みが複数維持されていることは心強い。こうした人材育成を果たす学術ネットワーク活動であることは高く評価されるべき」、「国内の大学からMOUに基づくアイデアス研修事業への大学院生受け入れを行い、日本人研究者の養成に貢献していることは高く評価されるべき」など、複数の委員から高く評価するコメントがあった。
- このほか、コロナ禍で滞っていた研究者の海外派遣について、「今後のアジ研の研究の活性化につながる礎となることが期待される」など、複数の委員から評価するコメントがあった。また、アジ研の研究者が多くの国際会議・学会で論文発表を行った実績を評価するコメントも寄せられた。
- また、図書館の活動に着目した評価としては、「アジ研のリポジトリのメタデータをGoogle Scholar、国立情報学研究所、国会図書館に提供したことは、アジ研の成果の発信を促進する上で役立つ」とのコメントも得られた。